

授業概要

少子高齢化は、家族生活や家族形成に影響を与えるものであるが、その一方で、家族に関する意識・規範などが、少子高齢化の要因・背景として重要な意義をもっているのが日本社会の特徴である。このような動向を踏まえ、人口高齢化と人口減少、少子化と夫婦出生力、未婚化・晩婚化などに関する基本的な知識や実態を把握しながら、「少子高齢化」と「家族」の関係性について講義する。

授業計画

第 1 回	講義のねらいと全体像
第 2 回	人口高齢化（1）——老年人口割合の推移と展望
第 3 回	人口高齢化（2）——長寿化による家族生活への影響
第 4 回	人口高齢化（3）——人口移動と老年人口割合の関係性
第 5 回	人口高齢化（4）——高齢者の居住形態と介護における地域差の実態
第 6 回	人口の全体的動向について——人口転換モデルと人口ピラミッド
第 7 回	少子化（1）——少子化の定義と推移
第 8 回	少子化（2）——少子化の要因
第 9 回	少子化（3）——少子化対策の展開
第 10 回	少子化（4）——少子化を克服できない要因・背景
第 11 回	少子化（5）——女性の社会進出に関する意識と実態
第 12 回	少子化（6）——未婚化の推移と地域性
第 13 回	少子化（7）——未婚化の要因と未婚者像の妥当性に関する検討
第 14 回	少子化（8）——未婚者像と未婚化対策のミスマッチ
第 15 回	少子高齢化社会から人口減少社会へ
第 16 回	定期試験

到達目標

人口高齢化の要因・特徴と家族生活への影響について理解する。
 少子化の要因・特徴と女性の働き方における実態を把握する。
 未婚化・晩婚化の要因・特徴と家族観や結婚活動における実態を把握する。

履修上の注意

私語、無断の出入り、他の受講者に迷惑となる行為、受講中にすべきでない行為等については減点となる。講義開始後 30 分までを遅刻とし、それ以降については欠席とみなすが、公共交通機関の遅延など特別の事情がある場合には考慮する。
 また、家族論Ⅰを未履修の場合でも、本講義を履修することは可能である。

予習復習

参考文献や新聞などから、取り上げるテーマやキーワードについて簡単な予備知識を備えておく。その日に学習した内容を、前回までの内容とのつながりを意識しながら振り返り、整理しておく。

評価方法

成績は、定期試験と平常点を総合的に勘案して評価する。
 配分は、定期試験 50%、受講態度や取組姿勢等 25%、リアクションペーパーや作業プリント 25%である。

テキスト

- ・教科書名：『少子高齢化社会を生きる』
- ・著者名：清水 浩昭
- ・出版社名：人間の科学新社
- ・出版年：2019 年